

○奈良教育長 教育委員会協議会を開会します。

まず、議員それぞれの活動について、所感などを報告したいと思います。

それでは私から報告をさせていただきます。

7月9日の日曜日に、枚方市野外活動センターの協力を得まして、モバイルプラネタリウムの上映会を開催いたしました。また、同時開催として、枚方市在住者が個人所有しております隕石・化石29点を展示する、宇宙流星「隕石」&太古のロマン「恐竜化石」展を開催いたしました。これらは中央図書館で行ったものでございますが、午前と午後2回の計4回、160名が中央図書館6階の多目的室にて天の川の天体ショーを楽しみました。また、宇宙流星「隕石」&太古のロマン「恐竜化石」展では、本物の隕石を手で触ることのできる体験コーナーもありまして、たくさんのお親子連れが初めての隕石に興味津々で触れたり、ルーペで観察したりしておりました。展示会では、星や恐竜に関する本の展示、図書館職員による本の紹介なども行い、この日の中央図書館での児童書の貸し出しは、通常の2倍の2,000冊以上の貸し出しがございました。

7月15日に市制施行70周年記念事業として、こども夢基金活用事業として、バスケットボールカーニバルを市立総合体育館で開催いたしました。プロのバスケットボールチームの大阪エヴェッサの選手と、車椅子バスケットボールのアテネパラリンピック日本代表の阪根選手などを講師としてお招きし、市内の小学生を対象に、体験教室やデモンストレーション、トークショーを実施いたしました。子どもたちはトップアスリートのプレーを身近に見ることができ、また車椅子バスケットを体験したりと、子どもたちにとって夢を育む良い機会になりました。

7月21日、枚方市教育フォーラムを市民会館大ホールで開催いたしました。平成26年度の中核市移行を記念し、開始した教育フォーラムですが、今年で4回目を迎えました。2階席も満席になるような盛況でございました。今年度は、枚方市における子どもたちの確かな学びの育成に向けて、授業づくりと家庭学習充実をテーマといたしました。第1部では、市制70周年記念として、明治大学の齋藤教授から記念講演を伺いました。また、枚方市立学校園の子どもたちによる発表もございました。第2部はパネルディスカッションを行いました。ゲストパネラーに、高槻の第十中学校の校長先生、アドバイザーとして大阪府教育庁の柘田参事などを招きまして、本市の先進的な学力向上の実践校からの取り組み発表等が行われ、充実した中身になっていました。

7月25日火曜日、明日でございますが、夏季校長研修会が実施されます。また、翌日の26日水曜日には、夏季園長研修会、そして27日木曜日には教頭研修会ということで、管理職の研修会が連日ございます。管理職の力量・資質向上には欠かせない研修でございますので、充実した中身になるよう取り組んでまいりたいと考えているところでございます。

なお、少し前後しますが7月22日と23日、絵本作家の三浦太郎さんが、中央図書館、香里ヶ丘図書館に行かれて、トークショーやサイン会、ワークショップが行われました。私も参加いたしました。子どもたちにとっても、あるいは保護者にとっても、大変楽しい有意義な会でありましたので、ぜひ今後もこういったことは続けていく必要があるかと思っています。

また、7月31日から8月3日の4日間、中央図書館では第3次枚方市子ども読書活動推進計画に基づいた子ども読書活動を推進するために、小学校5、6年生と中学生を対象とした子ども司書講座を、昨年に引き続き実施するというところでございます。図書館司書の仕事を体験させるこ

とにより、司書の役割や図書館の活動を学び、本を読む楽しさや喜びを、学校や地域の人々に伝える読書リーダーを育成してまいりたいと思います。全課程修了者には、枚方市立図書館子ども司書認定書を授与するということになっております。

終わりに、市立図書館では蔵書への差別落書きがあったということから、人権意識の啓発の一環といたしまして、障害者差別解消法で変わる私たちの社会をテーマとしたパネル展示を、牧野図書館1階ロビーで行います。パネル約20枚と人権啓発に関する冊子やチラシ、ロビーで展示するとともに、図書館内では人権に関する本をあわせて展示するということをごさいます。

私からは以上でございます。

続いて神田委員、お願いします。

○神田委員 合同音楽会と公開授業と教育フォーラムについて、簡単に述べさせていただきたいと思います。第20回枚方市小学校合同音楽会は、6月27日から30日まで4日間にわたり行われまして、私は27日の開会の日と、翌日の28日に鑑賞しましたが、どの学年も45小学校、2年生から4年生まで発表しておりました。一生懸命歌う子どもたちに感動しました。特に合唱で歌う学校は、やはり先生方の指導が特に感じられました。また平日にも関わらず会場まで足を運ばれた保護者の方も多く、今後もこの音楽会の充実を図っていただきたいと改めて思っております。

2点目は、6月28日の午後に山田小学校の算数科の公開授業を参観しました。谷元委員と一緒に参観しました。算数科で、山田小学校は3年目になりますが、1年目の平成27年度は、私は講師で行った学校でありますから、この2年間どのような研究実践が進んでいるか、そういう楽しみもありました。山田小学校は単学級が4学年あるということで、研究授業した2年生も単学級でありました。研究授業した先生は、去年4月、殿山第二小学校から転勤してきた先生で、偶然3年前に私が殿山第二小学校で、研究授業を指導した先生でありました。2年生の、長さを表す単位、cmの学習でしたが、導入は児童にわかりやすい教具など準備をし、よく考えられた授業でした。課題は何点かありましたので、研究協議会等で話をしました。枚方の授業スタンダードを踏まえた指導案で、山田小学校ではこの指導法が定着していることが伺えました。この授業をした先生も、3年前の研究授業とは違い、自信を持って授業しており、そしてその指導力は一步一步向上しているということ、授業を見て感じました。単学級ですので、1人で色々教材研究をするということもありますが、低学年部会の中で、ほかの先生方の意見を聞きながら、自分の考えをしっかりとって指導展開を考えられたということで、その成長を改めて校長先生からお伺いしました。先日のフォーラムでも府の柘田参事が、研究授業を普段どう生かすかということが大事だということをおっしゃったんですけども、私もその研究授業を普段に生かすポイントは、研究授業を通して学んだことを、普段の教科書を見て、どこが指導のポイントであるかということを目でわかる、これが普段の授業に生かすポイントであると思います。そのためには、こういう研究授業が改めて大事だということをおもっております。枚方市の研究指定校である山田小学校で、このような教師が育って学力向上を図れることを期待して、校長先生にも話をさせていただきました。

7月21日は、先ほど教育長の話にもありましたので、簡単に話をさせていただきます。明治大学の齋藤孝教授の「人間関係をつくるコミュニケーション力」の講演であったわけですが、

冒頭言われたのは、「学力にはいわゆる旧来型の伝統的な学力と、新しい学力がある。今、日本で行われている教育は、新しい教育を明治以来ずっと行ってきて世界で成功した唯一の国である」と。日本の先生方の一斉授業というのは、非常に上手であるということが、ほかの国でも評価されているということは、いろんな本でお聞きしております。また、この新しい教育ということについては、成功はしておりますけれども、今後より深めていく意味で、再生能力といいますか、インプットしたものをアウトプットする能力が求められているということでもあります。また日々の授業では、3つの問いで構成して、感動と習熟が大事で、やはり1時間といえども、先生は感動させる授業をする必要があると。やはりその言葉は重みがありました。そして、その定着させるための習熟が大事で、その日のうちに2回習熟すると記憶に残るとということが、印象深く残っております。後半のコミュニケーションをつくるための活動は、私たちも議員さんも手をとって、ほぼ1時間立って、体験をさせていただきました。子どもの気持ちがよくわかったと思いました。もう少し欲を言うならば、この人間関係をつくるコミュニケーション力の授業について、お聞きできたら良かったと思いました。

第2部で枚方の授業づくりと家庭学習についてパネルディスカッションがあつて、枚方市の研究指定校から、具体的な取り組みを紹介されました。以前にお話ししましたが、ここ6、7年研究指定校がなかった枚方市ですが、これらの指定校が本市の学力向上のモデルとなる取り組みを進められていることを強く期待しているところです。そのためにはまだ一歩踏み出したところだと思しますので、学校のこの組織的な取り組みを高めていくとともに、私は研究の道筋を示し、研究授業などを指導していただく指導講師の力が非常に大きいと思っています。これからはさらに研究授業の充実が求められてくると思っています。事務局から全小中学校の校内研究のテーマ、教科、講師等の一覧をいただきました。特にこの研究指定校には、委員会として、全校に言えるんですけれども、積極的に講師を紹介して、枚方市の取り組みの基本的な方向が研究指定校と同じように推進されるように支援していただきたいと思います。私は東京等、関東地区でずっと若い時から研究に行っていて、なぜ進んでるかということ、大学の講師とその中間をつなぐ指導主事、もしくは元校長等がいて、現場の教師と、三位一体でやっております。だから何々大学はこのグループと、そこまでは行きませんが、枚方市でこの指定校には、国の方向を踏まえて、具体的な実践の指導をしていく。現場の大学は忙しいですが、この研究指定校の小学校5校、中学校3校には、できるだけ校長等も協議して、講師を紹介して、枚方市の研究の道筋が同じ方向で進むように、また教育委員会でも支援をしていただければと思っています。

以上、所感とします。

○奈良教育長 ありがとうございます。

続いて吉村委員、お願いします。

○吉村委員 私は、7月21日の第4回の教育フォーラムに関連して、話をさせていただきたいと思っています。平成26年、中核市となった年に第1回が行われて、たまたまその時に教育委員でもありましたので、1回目から4回目まで、それぞれのスタイルのフォーラムという形でさせていただきました。今回は、記念講演の後にパネルディスカッションというスタイルだったんですけども、ときには初任者がステージに上って、模擬授業を通してそれをみんなに見てもらおうというス

タイトルとか、様々な工夫をされながらやってこられたかなと思っています。次は5回目になるわけです。恐らく事務局の担当者については、もう既に来年の構想というのをある程度つくりながら、今年度の様々な良い点を継承しながら、また新たな形で進んでいかれると思いますし、今回の準備その他、短時間での調整等はすごく苦勞されたのではないかということを感じながら、次の第5回目を期待したいと思っています。パネルディスカッションのメンバーは本当に素晴らしい方を選定していただいて、自分の思いを丁寧にわかりやすく、随分時間をかけられて、スライドも含めてしっかりつくられたと思いますが、グレードはすごく高かったなと思います。個人的なことですが、高槻十中の吉川明先生につきましては、私が平成14年に初めて高槻の高等学校の管理職として行った時に、高槻市教委の指導主事としておられまして、様々なところで話をしてきました。久々に学校現場に戻られまして、ご本人が生き生きとして学校の立て直しを校長としてリーダーシップをもってされていました。久々に会えて本当によかったと思いました。

それから、まとめられました柘田参事は、パネルディスカッションがもう少し深まった内容の時間があればよかったという感想はあるんですけども、あの短い時間で少し押したような状態の中で、ポイントをきちっとまとめられて、大事なことをおっしゃっていたのはやはりさすがだと思います。参加されました学年主任、経験の浅い教員の皆さんが、どのように感じられたかは非常にわかりにくい部分ではありますが、たまたま初任者で受けられている枚方市内の小学校の先生に実際どうだったか話しました。「夏休みという期間が、子どもたちが家庭や地域に帰る中で、一回りも二回りも成長してくるので、それに応じた授業を2学期にしていくことが大事だから、頑張っただけ」と声をかけましたら、にっこり笑って「頑張ります」と言ってくれたのが、すごく印象に残りましたので、こういう思いのある先生方をどんどん育てながら、子どもたちに関わっていくということを自信を持って、教育委員会としても発信していただけたらどうかと感じました。

以上です。

○奈良教育長 ありがとうございます。

橋野委員、お願いします。

○橋野委員 私は、6月27日に市民会館大ホールにて第20回枚方市小学校合同音楽会があり、第1部と7部に出席をさせていただきました。難しい合唱も、みんなで発表できていたように感じました。7部では、児童数も多く、保護者の方の協力もあり、スムーズに入れ替わりができ、わが子の姿を目の前で見られて、保護者の方もよかったのではないのでしょうか。とてもよい配慮がされていてよかったと思います。

7月12日に、栄養教諭研修があり、本年度より中学校でも栄養教諭が配属され、食育に対する指導も始まり、大阪夕陽丘学園短期大学の食物栄養学科久我准教授による、食に関する指導を深める具体的方策についての講義・演習がありました。特活などで指導案作成や書き方、目標として何を身につけさせるか、広げる・深めるは、の設定など、大切にしたいところを話し合っ、一問一答とならず、子どもたちの間でも関連発問ができると良いなど、細かく助言していただきました。

7月20日には、幼稚園教諭研修があり、プール学院大学松久准教授の、ともに育つための市民

教育とは、支援の必要な幼児を含めたクラス経営、また個別支援について考える、の講義をしていただき、とても理解しやすく、発達障害の特性を助言し、その中でも一人一人全然違うこと、視覚支援でも絵がいい幼児もいれば写真がいい幼児もあり、その幼児に合った個々の支援の充実を図るという協議もあり、その幼児には何が大切か、そのステップにほめてあげてほしいこと、また変化をととても嫌がるので、クラス替えなどの初めの時期はしっかりと支援が必要だと助言いただきました。

7月21日は、枚方市教育フォーラムがあり、招提北中学校吹奏楽部によるオープニング演奏から始まり、テレビでよく拝見する齋藤孝氏による「人間関係をつくるコミュニケーション力」の講義で、とてもパワフルで頭の回転も速く、要点のついた指導をしていただきました。次に枚方第二小学校での澄んだきれいな声の合唱で、振りつけもあり、心打たれ、感動しました。高陵幼稚園の児童は、鳴子踊りをたくさんの人の前で堂々と踊り切ったのが、とてもかっこよかったです。第2部では、パネルディスカッションの「枚方の授業づくりと家庭学習」ということで、経験の浅い先生方はメモをとり、聞く姿勢ができていました。各学校の良い取り組み、実践、発表をしていただき、たくさんの教職員・保護者に聞いていただくことで良い発信ができ、素晴らしい教育フォーラムになったと思います。

以上です。

○奈良教育長 ありがとうございます。

谷元委員お願いします。

○谷元委員 私からは、重なりますけれども、枚方市小学校合同音楽会と、山田小学校の公開研究授業、枚方市教育フォーラムについて述べたいと思います。

枚方市小学校合同音楽会は、平成10年に始まり、そして20回目を迎えました。合同音楽会は、枚方市の児童が歌う喜びを味わい、音楽を通して他の学校の児童と交流を深め、授業で学んだ成果を発表するととても良い機会になっています。子どもたちにとって、枚方市民会館の大ホールで歌ったという経験は、小学校時代の大きな思い出としてずっと心に残る素晴らしい経験です。また児童や教員が切磋琢磨しながら、斉唱や合唱に取り組むことは、歌唱のレベルが上がるとともに、出場した学年のみならず、学校全体の歌や音楽に対する表現の能力や、表現する楽しさを味わうことにつながると思います。合同音楽会のような音楽活動を通して、学習指導要領が示している「表現及び鑑賞の活動を通して、音楽を愛好する心情と、音楽に対する感性を育てるとともに、音楽活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う。」という目標に近づけることができると思います。見に来られていた保護者や地域の方々からも大きな拍手がわき起こり、歌っている児童や聴いていた児童も、合同音楽会を通して音楽の素晴らしさを一層感じることはできたのではないのでしょうか。

6月28日は、神田委員と一緒に山田小学校の算数科の公開研究授業を参観しました。「長さを測ろう」という2年生の授業でした。指導者は単元の導入にあたって、子どもたちに興味関心を持たせるため、わかりやすく理解しやすいよう、身の回りにある教材を選び、数学的活動が行えるよう工夫していました。子どもたちはグループで与えられた教材を使い、協力して取り組んでいました。指導案はH i r a k a t a授業スタンダードに基づいた内容で、つかむ・見通す・解

決する・学び合うなど、計画的な指導案が作成されていました。しかし、前半に時間をとり過ぎたため、学び合う場面の中盤やまとめ・振り返る後半の時間があまりとれなかったことが残念でした。小学校の授業は中学校の授業と比べて丁寧であると言われていますが、丁寧過ぎると間延びするという、そういったことが多少あると感じました。山田小学校2年生は単学級のため、事前にほかのクラスで授業ができないということもあったと思います。しかし指導案の作成にあたっては、時間配分を考え、テンポよく授業を進める必要があったのではないかと感じました。そのためにはどの部分を授業の中心にし、時間を充分とるかを明確にしなければなりません。研究授業が日々の授業に生かされるよう期待したいと思いました。またこの学年には、支援が必要な児童が数名おり、その子たちは支援学級で同じ算数の授業を受けていました。支援学級の担任は児童のことをよく把握し、テンポよく授業を進めていました。通常学級と同じようにHirakata授業スタンダードを適用し、子どもたちに指導されていて、その内容と指導力に感心しました。研究協議会では、教育推進プランナーが、量と測定領域の学習内容、単元を通して育てたい力やほかの単元との関連についても指導・助言されました。ふり返りの重要性や子どもの能力差に応じた指導の大切さ、そのためのヒントなど、内容もわかりやすかったと思います。

枚方市教育フォーラムについてです。ほかの委員の方とも重なりますので、簡単に述べたいと思います。明治大学の齋藤孝教授のご講演は、「人間関係をつくるコミュニケーション力について」でした。子どもたちにとって最も影響のある学校の授業の中で、どうやってコミュニケーション力をつければよいのかという一つの方向、例を、会場の聴衆を巻き込みながらご講演いただき、90分があっという間に過ぎました。齋藤先生は、次期学習指導要領を見据えたとてもわかりやすい内容の「新しい学力」という本を出版されています。教育方法を専門とする教育学者の立場から、伝統的な学力と新しい学力を統合した学習スタイルの確立について、もう少しお話が聞けたらと思いました。パネルディスカッションは、パネラーが各学校での授業づくりや家庭学習の取り組み、実践がわかりやすく語られ、それぞれの学校の特色ある内容がよくわかりよかったです。大阪府教育庁の柘田参事の全体のまとめは、時間が少ない中、目当ての内容の重要性、授業研究は研究ではなくほかの先生の授業を変えられるかどうかにかかっている、そのとおりだと思いました。それから自分の授業を客観的に見る、授業のメタ認知が必要であると言っておられました。それを実践する方法として、一人ビデオの授業研の提案など、大変示唆に富んだ内容で、本当によかったと感じました。どうもありがとうございました。以上です。

○奈良教育長 ありがとうございます。

それでは事務局からの報告案件ですが、案件1について説明をお願いします。

黒田教育指導課長。

○黒田教育指導課長 協議会案件1、平成29年度全国学力・学習状況調査結果の公表についてご説明いたします。協議会資料の1ページをごらんください。

1. 概要ですが、全国学力・学習状況調査結果については、本調査実施要領を踏まえ、成果と課題を具体的に整理し、教育指導や学習状況の改善等に役立てるとともに、保護者や市民にわかりやすく伝えるために、内容の公表を行うものです。

次に2. 経過及び趣旨についてご説明させていただきます。これまで本市では、市全体の平均

正答率については、公表してきませんでしたが、昨年度は、保護者や市民、学校等に、これまで以上にわかりやすく伝える趣旨から、各教科における平均正答率の対全国における経年比較等について、公表を行いました。一方、本調査実施要領には、「個々の学校名を明らかにした公表については、その教育上の影響等を踏まえ、必要性について慎重に判断すること」と定められているため、序列化や過度な競争が生じる恐れから、個々の学校名を明らかにした公表は行ってきておりません。

これまでの経過を踏まえ、今年度の結果公表についても、本市の成果と課題を明確にし、分析結果を今後の教育施策や教育指導等に反映させるとともに、保護者や市民、学校等にわかりやすく伝える趣旨から、本市が学習指導要領の内容を全国水準で修得できているかを把握するための一つの指標として、各教科における平均正答率の対全国における経年比較等の公表を行います。

3. 公表の時期等でございますが、調査結果提供後2カ月程度をめどに、ホームページ等で公表することを予定しております。

4. 参考資料としまして、平成29年度全国学力・学習状況調査に関する実施要領を添付しておりますので、ご参照ください。

以上、甚だ簡単ではございますが、案件1、平成29年度全国学力・学習状況調査結果の公表についての説明とさせていただきます。

○奈良教育長 この件について、ご意見ご質問等ありますか。

谷元委員。

○谷元委員 平成29年度全国学力・学習状況調査の公表について、先ほど説明された中で、公表の目的の中に、成果と課題を明確にしていくとありましたが、そのことについて、今年度4月に実施された全国学力・学習状況調査の実施後に、各校で問題の分析と自校採点を行ったと聞いています。改めてその目的と、実施したことにより効果につながると考えられる具体的な取り組みについて教えてください。

○奈良教育長 黒田教育指導課長。

○黒田教育指導課長 ご説明いたします。各校におきまして、全国学力・学習状況調査実施後に行いました教員全員での問題分析は、今、国が求めている学力観を改めて理解するとともに、各学校の授業づくりに反映することを目的に実施いたしました。各学校の具体的な取り組みとしまして、今、国が求めている学力観に基づき、定期テスト等においてそれを踏まえた設問を設定したり、普段の授業においても、H i r a k a t a 授業スタンダードに基づき、児童生徒が主体的に取り組む場面を工夫するなど、授業改善を研究する取り組みを進めております。また、自校採点は早期に採点・分析を行うことで、学校全体の成果や課題を把握し、組織的な学力向上の取り組みに活かすとともに、児童生徒一人一人の課題を把握し、指導に役立てることを目的に実施いたしました。自校採点による結果分析を行ったことで、学力向上委員会、教科会、学年会でこれまでの取り組みの成果と課題を再確認し、校内研修、とりわけ夏季休暇中にも授業改善に向けた授業研究を充実させ、2学期からの取り組み、実践の充実を目指しております。また個々の課題に対しては、放課後学習や家庭学習の教材の工夫を行うとともに、短いサイクルで定着状況を確認し、指導に活かしている取り組みが見られます。

以上でございます。

○奈良教育長 ほかにご質問等ございませんか。

神田委員。

○神田委員 平成29年度のこの全国学力・学習状況調査の公表についての資料ですけれども、これは昨年度と同様なのか、変わったところはないのか、どうですか。

○奈良教育長 黒田教育指導課長。

○黒田教育指導課長 内容につきましては、昨年度本市の成果と課題をより明確にするということで、意見会の検討を重ねてきたことがあります。

○奈良教育長 神田委員。

○神田委員 7月5日の校長会の指示伝達メモをいただいて、その公表等についての市伝達の中の②のところに、これとよく似た内容で予定と書かれている、これは予定であって、協議会を踏まえて今後それを実施していくと、こういう手順なんですね。

で、もう1点③に、各学校においては本調査実施要領や市の方針を踏まえ、適切な方法で自校の児童生徒や保護者等に対して調査結果の説明を行うことと、書かれているんですけれども、今後、これは私の意見ですけれども、今日いただいた文部科学省の実施要領の8ページに、公表について云々というのがあります。で都道府県教育委員会、また市町村の教育委員会、各学校の公表のことについて書かれているんですけれども、この8ページの(イ)で、市町村教育委員会においては、以下のことにより取り扱うことという中で、③は、自らが設置管理する学校に自校の結果を公表するよう指示する場合も、自らが個々の学校名を明らかにした公表を行う場合に準じてくださいと、こう書いてあります。あと9ページの③にこれの読み取りがあるんですけれども、③(ア)①又は(イ)とかあるんですけれども、その次の段落で、教育委員会において自らが設置管理する学校に自校の結果を公表するよう指示する場合は、教育委員会が自ら実施する改善方を速やかに示すとともに、公表する内容等について学校に指示する場合は、教育委員会は当該学校とそれらについて事前に十分相談すること、とあります。今後これについては昨年度こういう状況なかったと思うんですけれども、この③の、市に伝達している内容について、結果分析に伴う公表内容をどうするのかという点について、また検討されて、政策会議等で話をさせていただけたらということで、意見として申し上げておきます。

○奈良教育長 ほかにごございませんか。

谷元委員。

○谷元委員 先ほど課長から、自校採点することで児童生徒一人一人の課題を把握し、それに役立てることを目的に実施したというようなご発言がありました。学校全体の組織として、課題があつてこうしていこうということについては結構できてきたという感じは持っているんですけれども、早い段階で採点をして、やはりそれぞれ児童生徒に課題があると思うんですね。その課題に対して学校の教員がどのように取り組んでいくのかということについては、まだ弱い面があるということを聞いてるんですけれども、その辺のところを、やはり例えば夏休みの機会とかを利用して、しっかりと課題に対して子どもたちに指導していくということが必要であると思っています。



○奈良教育長 ほかにございますか。

最後に谷元委員から指摘があったことについては、今回の自校採点における大きな課題だというように思います。その辺、各学校がどんな実態にあるのか、あるいは行動していくのかについて、よりしっかりと指導していく必要があると思いますので、よろしくお願いします。

本件に対するご意見、ご質問はこの程度にとどめます。

それでは本日の公開とする協議会は以上となります。